

評

◎日本名勝寫生紀行 第一編

神田表神保町 中西屋

四六形美本定價貳圓五拾錢

此書は山本森之助、小林鍾吉、中澤弘光、

岡野榮、跡見泰諸氏の筆になれる寫生畫七

十枚近くを集めしものにして日光、中禪寺、

榛名、妙義、淺間、澁温泉、長野、諏訪、

木曾等の各地の風景を綱羅せり。繪には油

繪あり水彩あり色鉛筆ありてとりくくに面

白きに、それを刻むに原色版、木版、寫眞銅

板等あらゆる様式を用ゐたれば、幾度繰返

し見るも飽くるを知らず。巻尾の紀行文

は、畫家として文名ある小林氏の筆に成り

しとて、情景視るが如く、一節毎に繪を

開きつゝ多大の興味を以て一讀したり。製

本の意匠内部の粧飾何れも工風を凝せしも

の其價に比して極めて廉なり。乍併そは實

質の上について云ふとて、吾國の富の程

度にては、廣く何人にも頌難からべく、

第二卷よりは先づ五六部に分冊して發行し

後ち合本とせば讀者に便利なるべし。猶四

六形にては、折角の繪を縮めて遺憾に思は

るゝ點少なからず、此次よりは菊判以上に
改められんことを望む。

◎水彩熱海風景 大下藤次郎筆

日本橋區通二丁目 松聲堂

繪ハガキ石版印刷六枚一組貳拾五錢

熱海海岸、梅園、來宮神社、魚見崎、温泉

寺、伊豆山等の風景を寫せしもの、從來松

聲堂發行のエハガキに比して製版印刷共に

出來榮よし。

◎週報 文藝の週刊雜誌にして頗る清新の

材料に富み活氣ありて趣味多し希くは散文

とやら美文とやら夕暮のまちはづれを歩い

て何やらの感にうたれし小川の水は美しい

とか花が流れて來たとか甘つたるい場處塞

げは他の所謂文藝雜誌に譲つて文界の消息

報導評論等に重きを置かれんとを(毎週日

曜日發行 一部五錢 芝區神谷町週報社)

◎海國 この雜誌を見ると氣が若々しくな

つて急に太平洋の眞中へでも飛出たくなる

三月號には畫家の文章が出るとの事、文士

が畫をかく様なもので面白いとであらう

近事雜聞

△水彩畫講習所に於ては一月二十七日正午
よりその開校一周年紀念を兼ね新年會を催

ふしたり、會するもの講師生徒合せて四十

名、頗る盛會にて、講話演説及作品批評等あ

り、終て遊戯福引等種々なる餘興ありて、

午後十時散會したり。

△同日月次會の出品は五十餘點、一等夏目

七作氏の靜物、二等鈴木一治氏の秋の郊外、

三等志賀正人等の芝山内等にして、選外に

も佳作少なからざりし。

△早稻田畫會にては二月十七日牛込朝日俱

樂部に於て茶話會を催ふしたり。

△本月下旬開會せらるべき東京博覽會に出

品さるべき水彩畫の内確定せし分は、太平

洋畫會にては河合新藏、丸山晚霞、中川八郎、

大橋正堯、大下藤次郎、白馬會にては三宅

克巳、其他、眞野紀太郎、織田一磨等の諸

氏にして他に三四の出品あるべしと云ふ。

△水彩畫講習所二月々次會の出品は三十

餘點、一等松山忠三、二等小山周一、三等

志賀正人氏なり